

平成 22 年度

札幌市研究開発事業「小中連携」に係る実践研究

1. 研究の内容・方法

研究推進校として、小学校 2 校と中学校 1 校を指定するとともに、併せて、上記の委員構成による「札幌市小中連携に係る実践研究推進委員会」を設置し、学習指導や教職員研修及び地域との連携など、「小中連携」についての実践的研究を行う。

2. 平成 22 年度の主な実践内容

(1) 小中連携打合せ

日 時 平成 22 年 7 月 12 日 (月)
場 所 札幌市立宮の森中学校
内 容 小中連携の取組について
・ 夏休み明けの英語科の授業について
・ 2 学期以降の小中連携の取組について
・ 情報交流
・ その他
参加者 6 年生担任、教務、英語科教諭、中学校教頭

(2) 小中連携 (教務担当) 打合せ

日 時 平成 22 年 8 月 16 日 (月)
場 所 札幌市立宮の森中学校
内 容 ・ 児童生徒に身に付けさせたい力
・ 旅行宿泊で行事の場所と主な取り組み
・ 総合的な学習等での体験等
・ 2 学期以降の小中連携の取組について
参加者 各校教務担当

(3) 小学生の英語授業体験

日 時 平成 22 年 8 月 19 日 (木) 札幌市立三角山小学校の児童
平成 22 年 8 月 20 日 (金) 札幌市立大倉山小学校の児童
場 所 札幌市立宮の森中学校
授業内容 1 学年
Program 2 1
参加者 札幌市立三角山小学校 6 年 1 組 : 36 名
札幌市立大倉山小学校 6 年 1 組 : 35 名、2 組 : 36 名
担任・保護者

(4) 小学校公開授業の参観

日時及び場所 平成 22 年 9 月 12 日 (日) 札幌市立大倉山小学校
平成 22 年 10 月 16 日 (土) 札幌市立三角山小学校
内 容 授業参観

(5) 学校公開日及び道徳教育実践発表 地域・新 1 年生保護者への説明公開

日 時 平成 22 年 10 月 28 日 (木)

場 所 札幌市立宮の森中学校
授業内容 1年 道徳
2年 道徳
3年 数学・美術・国語
5組 総合
地域・新1年生保護者への説明公開

(6) 英語等の授業交流

日 時 平成23年1月18日(火)
場 所 札幌市立宮の森中学校
授業内容 1年1組 音楽
1年2組 英語
1年3組 理科
交流会 ・英語の授業についての交流(授業者から、感想、質問)
・各小学校からの英語活動に関する報告
・助 言: 萬谷隆一教授(北海道教育大学)
参加者 中学校授業者 大倉山小学校・三角山小学校・盤溪小学校 教諭

(7) 札幌市研究開発事業「小中連携」に係る実践研究 研究推進会議

日 時 平成23年1月27日(木)
場 所 札幌市教育委員会
内 容 ・事業概要について
・情報交流、その他

(8) 中学生による小学校訪問(総合的な学習の時間)

日 時 平成22年2月9日(水)
場 所 札幌市立大倉山小学校
札幌市立三角山小学校
内 容 小学校6年生を対象に、宮の森中学校1年生が学校の様子を紹介
流 れ ・中学校での生活、行事、学習等について
・合唱
・その他

(9) 入学説明会

日 時 平成22年2月10日(木)
場 所 札幌市立宮の森中学校
内 容 ・本校の概要
・入学準備日程
・中学校の学習・生活
・部活動
・その他
対 象 新1年生保護者

3. 平成22年度 その他の連携内容

- (1) 防災フェスティバル 町内会
- (2) スクールカウンセラーを通じた連携
- (3) チューブ滑り大会 コース作り

- (4) 小学校6年生 国語の交流
- (5) 雪かきボランティア
- (6) 宮の森中学校ガイドブック(10月小学校に配布)

4. 平成22年度 成果と課題

学校全体の教育課程をプランニングしていくなかで、小学校は次のステップとしての中学校を、中学校は既習事項を生かしながらの進めるために、互いを理解していくことが必要である。その第1段階として、教務担当者が互いの校種の理解を深めるための会を開催することができた意義は大きいと考えている。さらに、その話合いの中から、児童生徒を豊かな個性を認めた教師の声かけに裏付けされた「言語活動の充実」の必要性が浮き彫りとなった。

小学校公開授業では、様々な学習形態を活用しながら授業が展開されており、その授業は中学校で取り組まれているユニット学習につながると思われる。また、低学年でのロールプレイングを交えた道徳の授業により、これからの学校生活において欠かせない行動規範が育まれていく姿が確認できた。

中学校の夏休み中に行う小学校6年生を対象とした英語授業体験、小学校の冬休みを利用して小学校の先生に中学校の授業を見ていただく英語の授業交流を続けて3年になり、運営も円滑に進むようになった。中学校の教室で、中学生が使っている机に向かい、中学校の英語の先生から実際に受ける授業は、入学後の学校生活を円滑なものへと導いていると思われる。また、同時に行われている部活動の見学では、吹奏楽部による歓迎演奏が行われるなど、小学校の6年生が参加できる場面を工夫してきた。さらに、引率の保護者に協力をいただくことで、活動を広く理解していただくことにつながった。

英語の授業交流では、今年度から、音楽・理科の授業を加え、1学年の3学級すべてを公開した。大倉山小学校、三角山小学校に加え、盤溪小学校の先生にも参加していただき、活発に交流が行われた。

小中連携(教務担当)打ち合わせ会で話題になっていた、学力テスト結果を比較し学力の分析を行うことが話題に上っていたが、実施できないままであった。次年度は分析を行いたい。

5. 平成23年度 研究の方向性

英語授業の共通理解ができつつあり、23年度も「英語授業体験」「英語の授業交流(1学年授業公開)」を継続したい。「英語授業体験」は8月23日(火)三角山小学校と24日(水)大倉山小学校を計画である。「英語の授業交流(1学年授業公開)」は、日程が厳しい状況にあるが、1月16日(月)中学校の始業式の後であれば、実施が可能である。さらに、教科のつながりを数学・理科等の教科に広げることができないか検討を進めたい。

言語活動の充実については、発達段階を踏まえ、児童生徒同士、児童生徒と教師、児童生徒と地域など具体的な場面を想定して伸ばしていく必要がある。

さらに、道徳教育で義務教育の9年間のつながりを構築できるように、生活状況調査のようなアンケートを実施し、宮の森中学校校区のスタンダードとなるような規範意識が確立できるように工夫したい。

「中1ギャップを埋めた方が良かったら」を洗い出すこと、それとは逆に、あえてやや高め目標を設定し努力させるように「中1ステップを設けることによって成長を促す場面」がわかった上で小学校・中学校が共に指導に当たる姿を実現させたい。